

令和6年度 第2回大野城心のふるさと館運営協議会 議事録

1 日時 令和7年1月24日（金）14：00～16：00

2 会場 大野城心のふるさと館M2階 講座学習室

3 出席者

《委員》

伊藤 信二（九州国立博物館）

松川 博一（九州歴史資料館）

中村 弘峰（中村人形）

林田 スマ（大野城まどかぴあ）

宮本 明子（西日本鉄道株）

古賀 麻美（ままいる）

天野 祥子（ふるサポの会）

片山 一男（ふるサポの会）

※欠席委員 宮崎 莉沙（名鉄観光サービス株）

《事務局》

館長 赤司 善彦

ミュージアム担当 課長 佐藤 智郁

係長 島 朋宏／上田 龍児

担当 中藺 眞子／関 優真

文化財担当 課長 石木 秀啓

係長 林 潤也／早瀬 賢

4 内容

（1）館長あいさつ

（2）冬季特別展「発掘された日本列島 2024」観覧
事務局説明後、冬季特別展観覧（解説付き）

（3）議事

①冬季特別展展示について

[事務局]

・文化庁が主催する全国巡回展である。全国の遺跡から出てきたものを展示している。特色は東日本で出土したのことが多いことである。

[委員意見]

- ・はにわ等に興味があるが、解説があるとより分かりやすく楽しめた。ライトな展示ではないが興味深く思った。照明も見やすくされており良かった。観覧者限定特典である「掘る掘るみくじ」もとても良いアイデアであった。
- ・解説を聞きながら展示を見ることができたので、理解をより深めることができた。当時の人の格好のイラストがあり、そのイラストから時代を想像できるため分かりやすかった。
- ・大野城市で新羅土器が有名なのは知っていたが、一度にたくさんの数の土器を見ることができ、おもしろかった。
- ・この特別展を誘致してくれたことに対して感謝の意を表したい。時代表記をしていないのはあえてなのかが分からないが、表記があるとより良かったのではないかなと思う。
- ・アンモナイトの化石をアクセサリにしているということに興味を持った。3階は子どもには難しそうだが2階は楽しめると思う。
- ・北海道の遺跡はなかなかみることができないため、素晴らしかった。
- ・全国たくさんの博物館がある中で、心のふるさと館で開館以降2回も日本列島展を開催できたことは素晴らしいことだと思う。感謝申し上げる。市民にとっても、有意義な展覧会となったと思う。

②過去会議で出た意見への対応、進捗

事務局から、資料に基づき説明

[委員意見]

- ・中学生の取り込みのために積極的に動いてくれてありがたい。職場体験だけでなくキャリア教育の要望もあるため、出前講座等も良いと思う。常設展示について、展示替えだけでもなかなか難しいところではあるが、過去の特別展等のダイジェストを展示しても検討してよいと思う。
- ・過去の意見に対して、確実に対応している姿勢が見られて良いと思う。どれだけのマンパワーを使うかなど、難しいところであるが今後も情報交換を行い、改善を図っていきたい。また、インバウンド等による外国人への対応（多言語化等）も検討が必要だと思う。
- ・意見への対応も委員の想像を超えていて、より良くなってきていると思う。ギャラリーを持っているが、リッツカールトンができたことをきっかけに、福岡市等の動きもあって外国人の方が多く見られている。外国人観光客の求めているものは、月並みのものではなく、ギャラリーの裏側を見せるというような、私たちの想像とは違うものに対する需要があるように思う。ギャラリー見学のあとに、二日市にある「西村織物」での工場見学にも行っているようだ。福岡市と協力しながら外国人を定期的に呼び込み、体験のようなものを行い、トライアンドエラーを繰り返しながら、多言語対応等をブラッシュアップしていけるといいと思う。
- ・開かれたものであるべきという意見に同感している。引き続き頑張してほしい。

- ・ママ友の話の中で、イベントのチラシを見た上で参加するかどうかを決定する判断基準として写真が必要だという意見がある。写真が無いとどんなものか想像できないため、文字だけでなく挿絵等の参考になるものがあることで、参加のきっかけになると思う。
- ・館のみなさんが一生懸命に取り組んでおられるのがよく分かる。1階のジョーホールに人がいないと寂しいため、なにか人が来るような様な工夫があっても良いと思う。子どもだけでなく高齢者や外国人など、だれでも利用できる場になるように、様々な人へ向けての発信が必要ではないか。また、定期的にギャラリートークを開催してもらえるとありがたい。

③事業報告（令和6年9月～令和7年1月分）

事務局から、資料に基づき説明

[委員意見]

- ・九州国立博物館との連携企画のチラシの件で、九博の表記について、「きゅうはく」ではなく「きゅーはく」である。
- ・前回の意見で述べたが、土器の茶色ばかりのイメージではなく、列島展のチラシは背景が青色で、茶色ばかりではないさわやかなイメージになっており、館の職員の方の努力があつてのことだと思う。解説があると考古学の資料は分かりやすいという点から、大野ジョー君を使つての解説や、館長のおすすめ等のスポット的な解説があつても良いと思う。
- ・館長が解説してくれるような機会があるととても面白いと思う。展示物全ての解説でなくても、おすすめのものだけを解説するような形も良いと思う。
- ・須恵器の漢字の由来についての解説があつた方がよかったと思った。デジタルコンテンツについては子どもたちがとても喜んでいたので良かった。
- ・秋の特別展のデジタルコンテンツが遊びながら学べるという点で素晴らしいと思う。どのような過程でこのようなアイデアが生まれたのか知りたい。

[事務局]

- ・須恵器は地味なため、とにかく興味を持ってもらいたかった。いろんな人から自由なアイデアを貰った。構想には大体半年ほどかかった。

④令和7年度特別展について

事務局から、資料に基づき説明

[委員意見]

特になし

⑤館事業の広報・PR方法について

事務局から、資料に基づき説明

[委員意見]

- ・新聞の広告はとても印象的だった。様々な方法で様々な人たちに届けてほしい。

- ・今後も近隣館として、連携をしていきたい。

その他

[委員意見]

- ・NHKで日本の100名城として大野城が取り上げられたが、それ以降の反応はどうか。
また、太宰府に多く集まっている外国人を心のふるさと館に呼び込むため、シャトルバスを走らせるような工夫をしてはどうだろうか。委員の中に西鉄の方もいらっしゃるのので、西鉄とタイアップみたいなことはできないのか。

[委員意見]

- ・太宰府に多く観光客が集まっていることは、認識している。弊社では様々な観光企画を実施しているところであり、今ここで具体的な回答はできないが、本件については今後も検討をしていきたい。

[事務局]

- ・よかバスの活用、九州国立博物館との連携などを進めている。引き続き外国人や観光客を呼び込む工夫を行っていく。

次回開催について

[事務局]

委員改選となるため、6月ごろに改選についての書類を送付予定。
次回の会議（8月予定）の際、委嘱式も行う。
上記については、別途お知らせする。

5 配布資料

- ・次第
- ・資料(名簿、大野城心のふるさと館運営協議会設置要綱、過去会議で出た意見への対応、進捗、事業報告、令和7年度特別展について)
- ・ここふるニュース vol.22
- ・各種チラシ「発掘された日本列島 2024」「九州国立博物館との連携企画」「レトロ絵葉書展 福岡の神社巡り」「おすすめ情報 2025 年1月号」「WEB アンケートキャンペーン」「LINE スタンプ」「発掘された日本列島 2024 限定メニュー」